

1. 略歴

1990年3月	東京大学大学院社会学研究科社会学修士課程修了
1995年4月	東京大学大学院社会学研究科社会学博士課程単位取得退学
1995年4月	信州大学人文学部人間情報学科文化情報論講座助手
1999年4月	岡山大学文学部行動科学科社会学・文化人類学講座講師
2001年4月	岡山大学文学部行動科学科社会学・文化人類学講座助教授
2002年4月	信州大学人文学部人間情報学科文化情報論講座助教授
2006年4月	東京大学大学院人文社会系研究科社会学専門分野助教授
2007年4月	東京大学大学院人文社会系研究科社会学専門分野准教授
2018年11月	東京大学大学院人文社会系研究科社会学専門分野教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

社会問題の社会学
歴史社会学

b 研究課題

セクシュアリティの歴史社会学
人口減少社会論
社会問題の構築主義アプローチ
社会関係資本の実証的分析

c 概要と自己評価

概要:以下の領域を中心に研究を進めている。

- (1) 社会問題プロセスの理論化
- (2) 近代日本におけるセクシュアリティをめぐる言説の変容
- (3) 歴史社会学の方法論
- (4) 猫社会学の理論と方法の確立
- (5) 社会関係資本の測定

自己評価

(1)に関しては、少子化問題に関する単著『少子化問題の社会学』を2018年に刊行したあと、少子化対策の形成プロセスや評価に関する社会的発信を試みている。また少子化の発生するメカニズムを高田保馬の理論に基づいて説明する単著論文「高田少子化論の進化論的基盤」を公刊した。少子化問題の理論的検討については、これで一区切りできたと考えている。(2)に関しては、明治期初頭の性科学書『造化機論』に関する研究を継続しつつ、オナニーに関する言説の歴史に関する単著『なぜオナニーはうしろめたいのか』を公刊した。この課題は今後も継続していく。(3)については、歴史社会学の方法論として、佐藤健二の『流言蜚語』を評価する論考を執筆するとともに、歴史社会学に関する論文集『社会の解読力〈歴史編〉』を編集した。(4)については、猫と人間の関係の進化を文明論・ポストヒューマン社会学の観点から分析する、猫社会学の理論と方法の確立を目指した取り組みに着手した。(5)については社会関係資本が健康や幸福感に与える影響を測定しつつ、これが福祉社会学にとって有する意味について解説した。

d 主要業績

(1) 著書

- 共著、赤川学、「ソーシャル・キャピタルと福祉」(単著)、武川正吾他編『よくわかる福祉社会学』138-139、ミネルヴァ書房、2020.10
- 共著、赤川学、「猫ブームの理由」(単著)、東京大学広報部編『猫と東大。』116-119、ミネルヴァ書房、2020.11
- 編著、桜井芳生・赤川学・尾上正人、『遺伝子社会学の試み』、日本評論社、2021.3
- 共著、赤川学、「高田少子化論の進化論的基盤」(単著)、桜井芳生・赤川学・尾上正人、『遺伝子社会学の試み』61-76、日本評論社、2021.3
- 共著、赤川学・小堀善友・シオリース、『なぜオナニーはうしろめたいのか』、2021.10

- 共著、赤川学、「猫と人間の未来を構想する猫社会学」(単著)、松原宏・地下誠二編『日本の先進地域と地域の未来』82-84、東京大学出版会、2022.2
- 編著、赤川学・祐成保志編、『社会の解読力〈歴史編〉』、新曜社、2022.3
- 共著、赤川学、「歴史社会学の作法の凄み—『流言蜚語』について」(単著)、赤川学・祐成保志編、『社会の解読力〈歴史編〉』201-217、新曜社、2022.3.9

(2) 論文

赤川学、「「オナニーの自由」考」、『月刊 WILL』、2、298-306 頁、2021.12

(3) 書評

ジョン・グレイ、『猫に学ぶ』、みすず書房、『沖縄タイムス』、2022 年 1 月 15 日、16 面頁、2022.1

(4) 学会発表

国内、赤川学、「「川崎市の地域包括ケアシステムに関する市民意識・実態調査」の新展開?——社会関係資本は孤立を防ぐか——」、日本社会関係資本学会、A4【公募パネル】、コミュニティ・カルテ調査が明らかにした幼児期から高齢期までのリスク連鎖と対応策、オンライン、2021.3.20

国内、赤川学、小西祥子、仮屋ふみ子、森木美恵、「日本人の性行動の経時的変化」、第 73 回日本人口学会企画セッション 2、2021.6.5、東京大学

国内、赤川学、「自殺に関する指定発言」、新型コロナウイルス (COVID-19) の世界的流行下における自殺予防・自死遺族支援のための学際的・共同研究集会、統計数理研究所、2021.10.30

国際、Akagawa, Manabu “The transformation of sexual behaviours after COVID-19”, The 1st UN-TNU sociology joint Forum, Online, 2021.11.6

国内、赤川学、「アイデンティティへの自由/アイデンティティからの自由」、日蓮宗現代宗教研究所発表大会、オンライン、2021.11.26

国内、赤川学、「社会関係資本は性行動を活発化するか」、日本社会関係学会第 2 回研究大会 (JASR2022)、C2【公募報告 4】、ソーシャル・キャピタルと健康・福祉、オンライン、2022.3.17

(5) 啓蒙

赤川学、「少子化は国難ではない」、『文藝春秋オピニオン: 2021 年の論点 100』、166-7、2021.1

赤川学、「研究内容: オリジナリティの見つけ方」、国際交流基金次世代日本研究者協働研究ワークショップ、オンライン、2022.1.28

(6) マスコミ

「なぜ日本の少子化対策は「大失敗」だったのか?」、『現代ビジネス』、講談社、2020.9.29

「女性活躍推進も効果なし、「少子化対策」が少子化を加速?」、『日経ビジネス』Web 版、2020.10.23

「官製の脅し、逆効果の恐れ」、『朝日新聞』、朝日新聞社、2020.11.7

「少子化、解決策はあるか 東大教授が勧める明石家さんまの名言」、『毎日新聞』、2022.1.1

(7) 翻訳

監訳・個人訳、ジョエル・ベスト、“Social Problems”、赤川学、『社会問題とは何か』、筑摩書房、2020.11

監訳・個人訳、ケン・プラマー、“Sociology: the basic”、赤川学、『21 世紀を生きる社会学の教科書』、筑摩書房、2021.1

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、日本社会学会、庶務理事、2021.11~

(2) 他機関での講義等

非常勤講師、慶應義塾大学文学部「社会問題の社会学」、2016.9~